

「平和学習週間」を振り返る



6月17日(火)～27日(金)の約2週間、亀井小学校では「平和学習週間」と銘打ち、全学年で戦争や平和について考えました。そして、その学習で学んだことや感じたことを各学級の代表者に放送で発表してもらいました。どの子も、しっかりと自分の思いを伝えていました。

残念ながら世界では、今も戦争が起こり、命をなくす人がいます。でも戦争は、自然災害と違って、私たち人間が引き起こしたことです。それなら、私たちの力でなくすことができるのではないのでしょうか。私たちの力で平和な世の中もつくることができるのではないのでしょうか。平和について、自分たちができることは何か。これからもしっかりと考え続けて欲しいものです。



6年生、長崎被爆体験講話にて、戦争の恐ろしさを学ぶ！

3日(木)の5時間目、6年生は長崎被爆体験講話があり、当時の長崎や被爆された時の様子などについて、講話者の方から話を聞きました。今年で戦後80年。当時、生まれたばかりでも80歳、6年生と同じ年齢だったら92歳ということになります。戦争を知っている方の高齢化が益々すすみ、全国各地を巡っての講演も難しくなってきました。そこで、被爆された方たちの話を聞き、伝えるのに講話者の方たちがいるのです。

一瞬にして家族が引き裂かれ、生活が一変する。
「本当に戦争は恐ろしいものだ」ということを、
子どもたちもしっかりと感じたことでしょう。

平和とは、人が豊かに生活し、生きること。
何事もなく、平穏に過ごすこと。
みんなが仲良くすること。

今、学んだことをしっかりと胸に刻み、10月、
“広島”の地でより一層深めていってください。

